

バスラ日誌（2月14日）

- 1 J9で任務期間を終えて帰国する人のフェアウェル・パーティーがあった。私が参加するのは今回で2回目（前は前任者[]とルーマニア軍の4人が送り出された。）だが、毎回帰国する人を誰かが紹介する。内容という、彼は責任感があって、与えられた仕事以上に業務を積極的にこなしたとか、彼はJ9に非常に良い成果を残してくれたとか、日本人じゃなくても恥ずかしくなるくらい褒める。また、その人のしゃべり方や身振り手振りをまねしたり、秘密の話を暴露したり、褒めるだけでなく笑いをとるためにジョークも入れる。そうやって紹介した後に、J9長がみんなが書いた寄せ書き（定型あり）とサーティフィケーション（J9で勤務したことを証明するもの）をわたす。その後本人が一言言う。皆一様に、「ここでは良い経験、充実した勤務ができた。上司や同僚に感謝する」というようなことを言う。自衛隊でたとえると、まるで定年退官時の紹介みたいな感じである。でも、考えてみると退官とまではいかないがかなりの重さのある勤務ではあるのだろう。誰もみな、ここで勤務できて良かったと言い、すごく充実した顔立ちで旅立っていく。私もここでの勤務が終わるとき、同じ事が言え、同じように充実した顔立ちでみんなに送り出してもらえよう、今後の勤務において精一杯努力していきたい。（[]）
- 2 英国人は見知らぬ人に自ら話しかけて近づこうとは絶対にしない、と本に書いてあったことは紹介した。確かに最初は、挨拶をしても無視されることが多かった。日本隊POLADの[]がこちらにこられた時も、すぐにそういう感想をもらわれていた。そういうところが、誤解されたり、嫌われたりする原因の1つなのだろう。先日会計会議で車代の分担を怒っていた某2カ国代表を含む他国の人は、英国人が嫌いらしく、周りを見回して確認した後、英国人の悪口をかなり言っている。鼻の下に指を横に当てて、持ち上げるしぐさをし、英国人は偉そうにしていると言う。私は、小心者なので、1度挨拶を返してくれた人から次に無視されたりすると、何か悪いことしたかなと心配になったりするが、大方の他国人は、そういう態度を「傲慢だ」ととるようである。ただ、一見冷たく感じられる人達も、職務上の対応は誠実で、親切だと思う。なかなか人間関係は難しいものだ。（[]）
- 3 本日快晴。バスラ4名極めて健康。（[]、[]、[]、[]）



スミッティLO日々業務報告(2月14日)

区 分	内 容
1 警戒態勢等	変化なし [] Threat Level []
2 特記事項	特になし
3 本日の業務	(1) 情報要求対応等 サマーワ市内の治安情勢、英豪軍の情勢判断等 (2) 各種業務調整等 群長訪問関連(15日)、明日以降の豪軍支援要請関連(J3変更関連)、IPA関連 (3) 各種ミーティング等 英・豪軍作戦会議参加
4 明日の予定	(1) 情報要求対応等 (2) 各種業務調整等 (3) 各種ミーティング等
5 その他(備考)	明日の射撃訓練 RANGE2 IPA(軽火器) 0700~1500 RANGE4 英軍(軽火器) 0800~1700